

内閣総理大臣賞・農林水産大臣賞

下集落支援事業委員会（京都府南丹市）



〈 にんにくの出荷作業 〉

〈 伝統食の継承を 〉

〈 炭焼きに魅せられて 〉

〈 留学センター卒業生188名の人形 〉

【概要】

（1）むらづくりの動機・背景

美山町は、南丹市の北東部に位置し、下区は美山町の中でも中心部から離れた地域にある。36世帯、人口68人、高齢化率47.1%と少子高齢化が進み、小学校も統合・廃校となり、耕作放棄地が発生する恐れや、地元行事の継続にも支障が出ており、住民の中で集落の維持と存続に危機感が広がっていた。

平成25年、南丹市の過疎化・高齢化対策補助金制度を契機に、地区住民内の集落活性取組への機運が高まり、地区住民が生きがいを持って健康で明るく暮らしていける地域づくりを目指し、「下集落支援事業委員会」を設立した。

（2）むらづくりの内容

下集落支援事業委員会の元に、農業、食文化、伝統文化、交流の4部門でチームを編成し、集落全体で事業を推進している。

農業、食文化チームでは、耕作放棄地対策を兼ねて農産物の栽培に取り組み、九条ねぎや、収益率の高いにんにくを栽培、出来も良く好評を得ている。また、高齢農家の水田の機械作業を請け負う等、農地の維持に努めるとともに、民間企業への農作業委託により、集落の農地全域にドローンを使った農薬散布を試みる等、効率化・省力化、新たな手法、技術を柔軟に取り入れている。さらに、地域おこし協力隊員が地区内で新たにさつまいも農業を始め、農地の保全のみならず農業体験イベントを行う等、農業の楽しさを内外にPRしており、今後の農業の担い手として希望となっている。

また、女性が中心となり、伝統食の「鯖のなれ寿司」や地元産もち米を使用した「のし餅」等の加工品の商品化に励み、技術の継承や世代間の融合も図られている。

伝統文化、交流チームでは、炭焼き文化復活の為、新たに「炭焼き窯」を作り、技術を持つ高齢者を中心に質の高い木炭の製作に取り組んだ。そんな炭焼きの奥深さに魅せられた若い女性グループが炭焼きガールズとして技術を学び真剣に取り組んでいる。

山村留学センターではこれまでに188名の小学生の成長を集落全体でサポートしており、地域外を受け入れる寛容さや柔軟性を備えている。また、京都や大阪の教育団体と連携し農園の運営や定期的な交流活動を行う等、意欲的に地域外ファンづくりを行い、地域住民の活気や「おもてなし」の心、地域への誇りを持続させているほか、村のシンボル「不動尊の滝」に450年続く伝統文化の継承や、新たに発見された「下村城跡」の情報発信を通じた観光による活性化にも取り組んでいる。

こうした取組を進める過程で生まれつつある効果は、集落の絆が深まってきた事であり、世代を超えての深い交流や語り、笑顔がこれまで以上に増えてきた。また、地域住民に誇りと自信が生まれ、先人が大切にしてきた伝統や文化、技の継承を通して、集落を見つめ直す契機にもなった。そして、地域外を含め、様々な方々との交流の中で新たな風が入り、集落の活性化に成功している。